
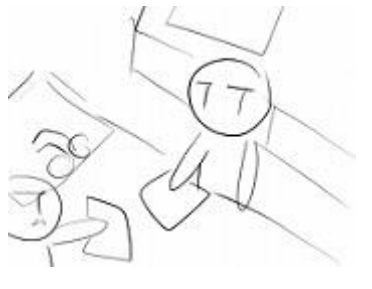


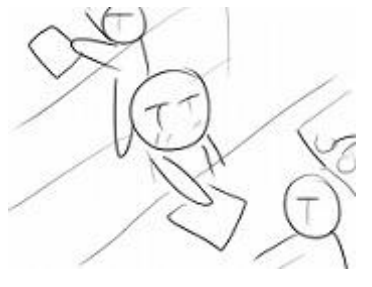


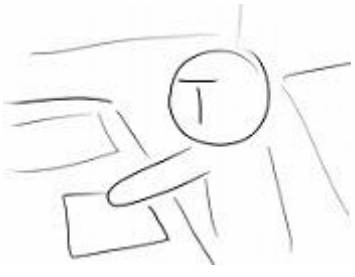

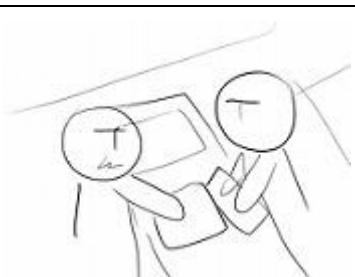

場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
1		<p>入間屋一家、調理場。 堅太郎と清子、何人かの若い衆が食器洗いをしている。 堅太郎「お客さんと一緒に食事するなんて初めてだな」 清子「そうね」</p>	
2		<p>堅太郎「お疲れ様。あれだけ用意するのは大変だったろ」 清子「平気よ。あなたや若い子達が手伝ってくれたもの」</p>	
3		<p>堅太郎と清子が洗い物を終えて水道を止め、手を吹く。 堅太郎「たける、お凜様と食事してて楽しそうだったな」 清子「ええ。一緒にお風呂も入ったみたいよ」 堅太郎「本当に？」</p>	
4		<p>清子が食器をしまう。 清子「あの子、一人っ子だものね。多分、お凜様と出会って、お姉ちゃんができる感じなんじゃないかしら」</p>	
5		<p>堅太郎が調理器具をしまう。 堅太郎「それ以上の気持ちなんじゃないかな」</p>	






場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
6		調理台を拭く堅太郎と清子。 清子「でも、お凜様って人間じゃないんですよ？」 堅太郎「そうだけど」 清子「いくら好きになっても、さすがに人間じゃないとお嫁さんにはなれないわ」	
7		堅太郎「お嫁さんって、気が早いな」	
8		清子「あら、10歳の小学生だった女の子と交際して結婚まで申し込んでくれたお兄ちゃんは誰でしたっけ？」	
9		堅太郎「ロリコンで悪かったな」 清子「だから知り合えたのよ」	
10		清子「たけるなら年相応よ。将来を考える女の子を見つけてもおかしくはないわ。でも、人間じゃないとね」	



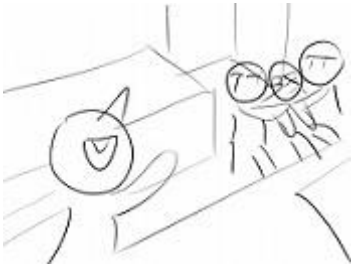

場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
11		堅太郎「若くて可愛いままでいてくれるなら、人間じゃなくても……」	
12		清子が瞬時に包丁を握って刃先を堅太郎に向ける。	
13		堅太郎「人間じゃないとだめだよね」	
14		清子「でも、お凜様が家にいてくれたら、たける、嬉しいだろうな。お嫁さんじゃなくてもいいから」 堅太郎「俺も嬉しいね。お風呂入りたい」	
15		清子が瞬時に包丁を握って刃先を堅太郎に向ける。	


場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
16		堅太郎「清子ちゃん一筋だよ……」	
17		そこに、顔面あざだらけで鼻と口から血を出した痛々しい奥富がよろよろと入ってくる。 奥富「親分……」 若衆達が動揺する。 若衆「カシラ！」 若衆「カシラ！」	
18		奥富が倒れそうになるのを、堅太郎と清子が受け止める。 清子「どうしたのっ？」 堅太郎「しっかり！」	
19		奥富「すみません……。閉じ込めてた奴に逃げられました……。飯食わせに行ったところを……」	
20		堅太郎「おい、すぐにお凜様をここに！」 若衆「はいっ！」 若衆が駆けていく。	



場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
21		奥富「若頭のくせにこんな下手打ちちまって。逃げた野郎、仕返しに来ますよ。熊男のこともあるのに、余計に面倒臭えことにしちゃいました……」	
22		堅太郎「カシラのせいじゃないです！ 自分を追いつめないで！」	
23		奥富「この落とし前は、自分につけさせて下さい。奴らが仕掛けてきたら、自分を先陣に」 堅太郎「もうしゃべらないで！」	
24		お凜様が駆けつけ、奥富に駆け寄る。 お凜様「カシラさん！」 奥富「お凜様……」	
25		お凜様が瓢箪水筒を手に取る。 お凜様「すぐに治しちゃう」 お凜様が手拭いに霊泉酒を染み込ませる。	






場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
26		お凜様が奥富の顔の傷に手拭いを当てていく。 傷が治っていく。	
27		奥富「冷てえはずなのに温ったけえや。神様とか半信半疑だったけど、やっぱりお凜様は本物なんだなあ……」	
28		堅太郎「信心の大切さがわかったでしょう」 奥富「ええ……」 清子は何も言わずお凜様を見つめてうなづく。	
29		お凜様「ゴキブリが逃げたか。誤算じゃった。奴らを殺しはせずに取り潰したが、殺しとけば良かったか」	
30		堅太郎「私達は暴力団じゃないんです。必要な抵抗はしても殺しまでは」	






場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
31		若衆が一人駆け込んてくる。 若衆「親分！ 玄関に！」 堅太郎「今度はなんですか！」 若衆「う、うう〜」 若衆の顔色が悪い。	
32		お凜様「わしが行く！」 お凜様が調理場を出ていく。	
33		玄関。 若衆達が動揺している。 お凜様が駆けつける。 お凜様「どうした！」	
34		お凜様「あっ！」 お凜様の驚愕の目。	
35		玄関の外に、砕けた豊岡の生首が転がっている。生首には書状が巻き付けてある。	





場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
36		堅太郎と清子、奥富が駆けつけてくる。 堅太郎「うっ！」 清子「うっ！」 奥富「うっ！」 生首を見てしまう。	
37		お凜様「逃げた奴じゃ……」 お凜様が生首に巻き付いている書状を解いて開き、目を通す。	
38		お凜様「宣戦布告。関東脅征会小谷田組は、関東入間屋一家の策略により脅征会を絶縁されたため、縁あって妖賊熊男党の軍門に入った。妖賊熊男及び小谷田組の双方の怨恨を晴らすべく、これより総攻撃する」	
39		お凜様の厳しい表情。 お凜様「熊男に魂を売りおった！ 愚か者共め！」 お凜様が書状を投げ捨てる。	
40		お凜様「今すぐ嚴重な戸締りをして、皆を大広間に集めるんじゃ！ 話がある！」	

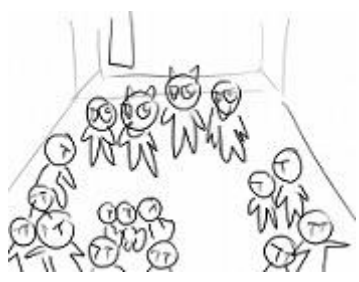

場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
41		大広間。 お凜様達、入間屋一家にいる全員が集まっている。 お凜様「熊男から宣戦布告があった」	
42		お凜様「熊男は、こん一家に嫌がらせしとった脅征会の奴らと結託して、軍団を作りおった。わしゃそこまで読めとらんかったけえ、不覚じゃった。すまん」 お凜様が頭を下げる。	
43		お凜様「脅征会の奴らは、熊男の手先となった以上、妖賊の血を飲んだ半妖人となって、人間をやめとるじゃろう。暴力団の抗争以上に見境なく攻撃をしてくるはずじゃ」	
44		お凜様「相手を殺さずに対処しようなどと考えたら、間違いなく殺されるじゃろう。生き延びたければ、ためらいなく、やるしかない！」	
45		お凜様「警察はわしらのことも、熊男のことも信じとらん。じゃけえ、実力行使をして正当防衛がどこまで主張できるかはわからん。罪に問われるかもしれん」	

場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
46		お凜様「わしは、子供達を守るため、牙吉飛丸、達次郎さんと共に敵を迎え撃つ。じゃが、一家の皆を巻き添えにはできん。己の生き死にがかかるとる。遠慮はいらん。今すぐ逃げとくれ」	
47		堅太郎「ここは私の家です。たけるが熊男の標的だし、脅征会のもめ事は一家の問題です。逃げる訳にはいきません」	
48		清子「私も、たけるを置いて逃げる訳にはいきません」	
49		東森「町の治安を維持する者として、たとえ敵が化け物でも、法を乱す悪を見逃す訳にはいきません」	
50		奥富「姐さんを置いて逃げるのは男じゃねえ。自分も残ります！」 若衆「残ります！」 若衆「残ります！」 若衆「残ります！」 若衆「残ります！」以下、若衆全員同じ。	

場面：宣戦布告

番号	画面	内容・台詞	時間
51		お凜様「皆の志、しかと受け取った！ じゃが、命を無駄遣いするでないぞ！ 子供達を安全なところに移して、戦支度じゃ！」	
52		一同「はい！」 若衆達が各々支度に取り掛かっていく。	
53		お凜様「牙吉飛丸、外で敵の気配を探とれ」 牙吉と飛丸がうなずいて、外に向かう。	
54		お凜様「おとつあん、おっかさん、できるだけわしらだけで食い止めて見せるで」 お凜様が外に向かう。	
55		清子が子供達を連れて行く。 堅太郎が手を合わせて祈りを捧げる。	